

共創に 本気のまち、 宇都宮。

宇都宮市共創推進指針

宇都宮市 共創推進室

HELLO NEW CITY

第1章. 指針の策定について（はじめに）

- 1 策定の背景と目的
- 2 これまでの経緯
- 3 指針の位置づけ
- 4 指針の見直し時期

第2章. 共創の理念

- 1 本市における共創の理念
- 2 共創の意義（共創の目的，必要性）

第3章. 共創の進め方

- 1 共創推進の基本的な考え方
 - (1)基本的な考え方
 - (2)基本方針
- 2 共創の原則（参考）共創のイメージ

第4章. 共創人材の育成

- 1 コーディネーターの確保（発掘・育成）
- 2 市職員の能力向上
- 3 市民・企業等の意識向上

第5章. 本市の推進体制・推進施策

- 1 本市の推進体制
- 2 本市の推進施策
 - (1)各分野における共創の推進
 - (2)ワンストップ窓口・東京圏での働きかけ
 - (3)共創のきっかけづくり
 - (4)共創提案の募集，実施に向けた支援
 - (5)官民の若者による共創の実践
 - (6)双方のリソースを活用した連携事業の実施
 - (7)成長段階に応じた豊富な企業支援（参考）本市の共創資源等

第1章. 指針の策定について（はじめに）

I 策定の背景と目的

○背景（社会課題の複雑化・高度化，民間の共創への期待の高まり）

- ・行政の資源やノウハウ等が限られる中，人口減少や少子超高齢化，インフラの老朽化など，直面する大きな環境変化に対応し，市民ニーズに的確かつ持続的に応えるためには，民間が持つノウハウやアイデアなどの強みを最大限活用することが極めて重要であり，国や先進自治体においても，「共創」を強力に推進
- ・民間においても，社会的責任に対する意識の高まりや，公民連携ビジネスへの期待の増大とともに，単独での革新には限界があるため，異分野と協力し多様な知識や資源を組み合わせ，新しい価値を創出する「共創」を戦略として掲げる企業等が増加
- ・デジタル技術の進化により異分野間の連携が容易となっており，スピード感を持った「共創」の推進が可能

○目的（新たな価値の創出）

- ・従来の公民連携を一步前進し，民間のより主体的な参画や発意を求め，双方向のコミュニケーションを通じて，それぞれの知識やノウハウ，資源を最適な形で組み合わせることにより，優れたサービスを効率的かつ持続的に提供できるよう，異なる価値観の積極的相互作用を通じて，社会課題の解決や新たな価値の創出を図る「共創」を推進する。

○指針策定に向けて（総括）

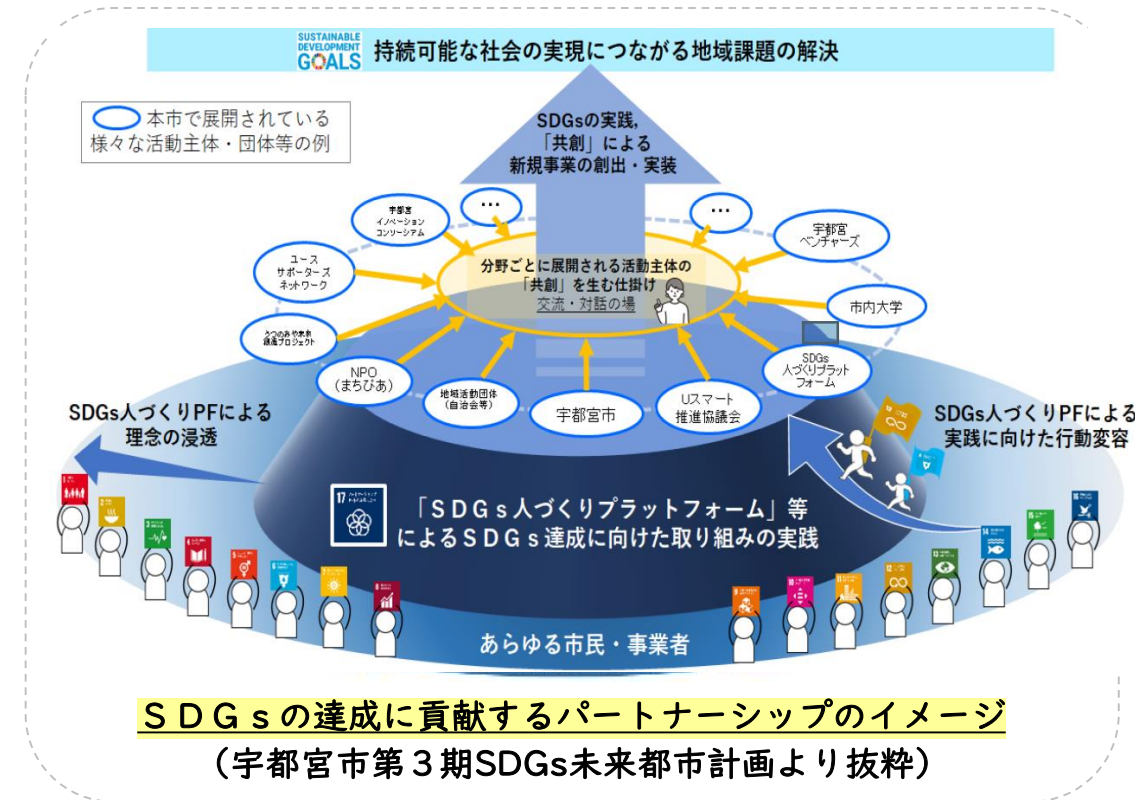
- ・市民からも，多様な仲間との出会いや対話・交流の機会や，活躍できる場への期待や需要が高いなか，全国から注目を集める本市において，さらに人や企業を呼び込むためにも，この機を捉えたイノベーションの促進や共創の更なる推進が必要
- ・社会全体で機運が高まる中，多様な主体の交流促進やマッチング，市の体制強化，更なる共創推進に向けた環境整備が必要

⇒ 社会課題の複雑化・高度化などにより，行政のみならず，市民・企業などと共に考え，共に創る「共創」によるまちづくりが重要

第1章. 指針の策定について (はじめに)

2 これまでの経緯

- 平成～
 - ▶ 市民・企業等との協働を推進
- 令和2年度
 - ▶ みや・公民連携デスク, 宇都宮市東京オフィスの設置
- 令和4年度～
 - ▶ 「第6次宇都宮市総合計画(後期基本計画)」(R5～R9)の策定
 - ▶ 「共創のまちづくりの推進」を位置付け
 - ▶ うつのみや未来創造プロジェクトの開始
- 令和6年度
(共創元年)
 - ▶ 地域振興・共創推進室の設置
 - ▶ 共創7 Days (ミライ共創フォーラム, 共創ウィーク)の開催
 - ▶ ミヤ・共創ラボ創設
 - ▶ 「宇都宮市第3期SDGs未来都市計画(R7～9)」に「(仮称)共創センター」の設置を計上
- 令和7年度
 - ▶ 共創推進室に改編
 - ▶ 宇都宮市東京オフィスの体制強化
 - ▶ 「宇都宮市人材育成・確保基本方針」に
目指すべき職員像「自律, 協働・共創型職員」を計上
- 令和8年度
 - ▶ 市制130周年・テーマ「共に創り 輝き続けるうつのみや 未来を拓くまちづくり」を掲示

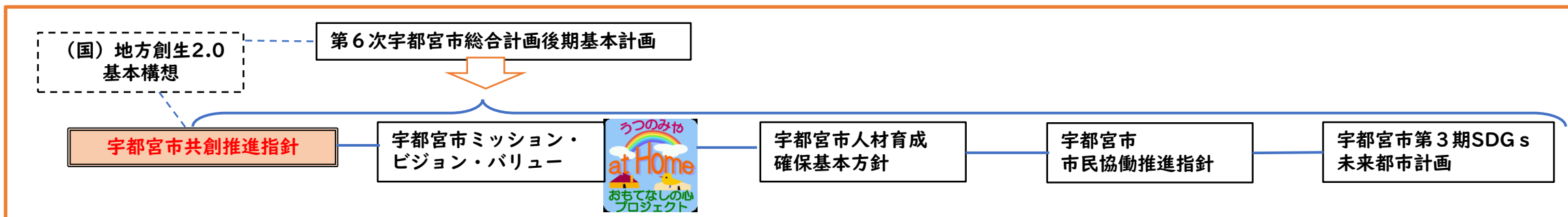


第1章. 指針の策定について (はじめに)

3 指針の位置付け

人口減少の中にあっても、市民・団体・企業・大学・行政等多様な主体・世代がさらに連携を深め、それぞれの力を発揮しながら、社会課題の解決や新たな価値を創出する「共創」により、発展し続けることができるまちづくりの実現を目指していくための指針

- ・ 総合計画に掲げる「共創のまちづくり」の推進に向け、関連指針と整合を図りながら、「共創」の基本となる考え方や進め方等を示したもの
- ・ 対外的に本市の共創に対する考えを示すもの



4 指針の見直し時期

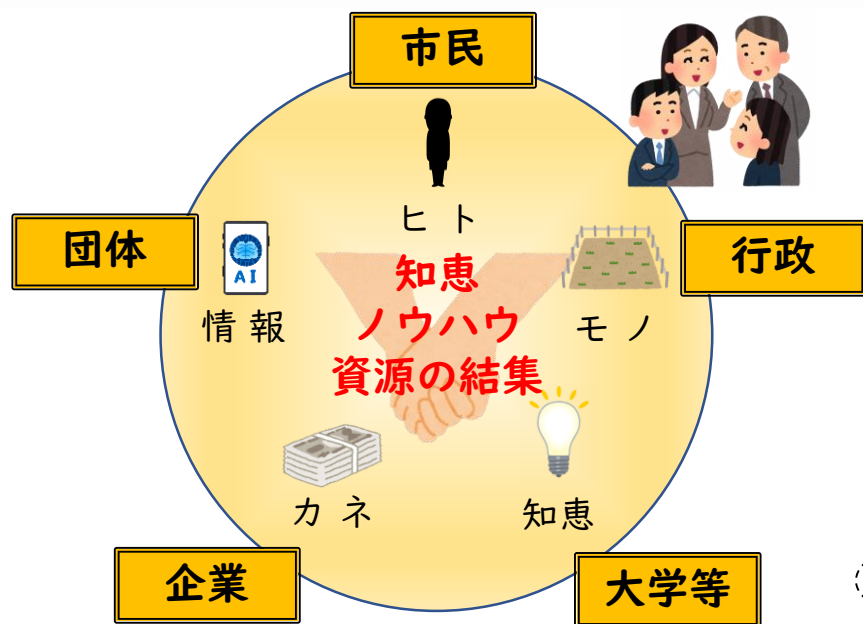
指針の見直し時期は定めず、社会環境の変化など必要に応じて柔軟に見直すものとする。

第2章. 共創の理念

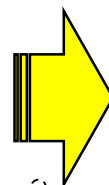
1 本市における共創の理念

「共創」は、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができるまち（将来の在りたい姿）を見据え、様々なステークホルダーが自由に参画し、**交流・対話**しながら、**知恵・ノウハウや資源等の強みを結集し掛け合わせる**ことで、**社会課題の解決や新たな価値の創出を図る** **戦略・実践的なアプローチ**

○本市が目指す「スーパースマートシティ」の実現に向けて、市民、団体、企業、大学、行政等が、**対等な対話・交流により、連携を深めながら、相互の知恵・ノウハウと資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を結集して、新たなサービスや仕組み・システムなどの新たな価値の創出を図る。**

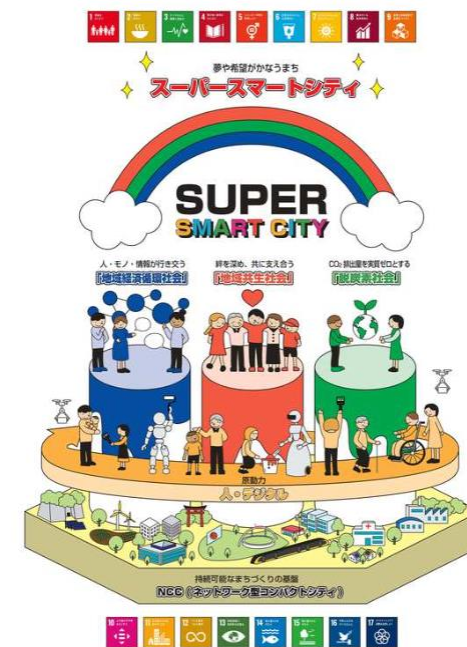


新たな価値の創出
社会課題の解決



成果物

- ・公共資源をアップグレードするサービスや仕組み・システム
- ・地域資源を活用した商品 等



2 共創の意義（共創の目的，必要性）

「共創」により，質の高い公共サービスの提供や，魅力と活力に溢れた創造的なまちづくりが推進される。

質の高い公共サービスの提供

- 公・民の資源等を結集することにより，複雑・多様化する市民ニーズに的確に対応した公共サービスの提供が可能となる。
- 民の力を活用することにより，より効率的・効果的かつ迅速に公共サービスの提供が可能となる。

魅力と活力に溢れた創造的なまちづくりの推進

- 様々な人々が，共に考え，共に創ることで，まちへの愛着が生まれ，まちづくりが「自分ごと化」される。
- 異なる立場や視点を持つ人々の交流・対話により，一人では思いつかない，創造的なアイデア・解決策が生まれる。
- ステークホルダーが初期段階から関わることで，現場の声を踏まえたまちづくりが可能となる。

新たなビジネスチャンスの創出（稼ぐ力の向上）

- 民間事業者のアイデア・ノウハウを活かした，新たなビジネスチャンスが創出される。
- 宇都宮市を場（フィールド）とした新たなビジネスが展開され，本市の稼ぐ力（民の利益・市の税収）が向上する。

第3章. 共創の進め方

I 本市における共創推進の基本的な考え方

(I) 基本的な考え方

・ 本市に対する国内外からの高い評価を活かし、人口減少・少子高齢化が進行する中においても、本市が、**多くの人や企業から選ばれる**とともに、**本市を選んだ人・企業が、自ずと宇都宮のよさを発信し、まちづくりの担い手の増加や企業の定着を促進する好循環**を生みだせるよう共創を推進していく。

☞ 社会課題を解決したいという**情熱や意欲**、**やる気**、**アイデア**、**新たな視点等**を持って、共創に取り組んでいきたい多様なステークホルダーを中心に、共創を推進していく。

☞ **アジャイル型**の視点を持って、**ポジティブ**に、**新しいことや可能性にトライ**し、**困難な目標や高いレベルにもチャレンジ**しながら共創を推進していく。

※共創のパートナー像

本市が目指す「スーパースマートシティ」の実現に向けて、まちづくりのパートナーとして幅広い分野で共創に挑戦する仲間

(例) きらり大賞受賞企業、CSR認証企業、SDGs人づくりプラットフォーム会員企業、健康づくり応援企業、包括連携協定締結企業 など

(対象外) 本市や市民への利益が見込めず、自己利益のみ追及する企業・団体など



1 本市における共創推進の基本的な考え方

(2) 基本方針

まずは「共創」の礎、第一歩となる、**出会い、交流・対話の創出**などに重点的に取り組む。

○本市では、令和6年度から「共創のまちづくり」の強化・充実に取り組んでおり、市民・企業等の共創に対する意識向上や実践推進に向けて、まずは「共創」の礎となる、人々の出会いと交流・対話の機会の創出、コラボレーションの促進に重点的に取り組む。

「共創のまち うつのみや」を持続的に推進するため、**公民の人材育成・底上げ**に取り組む。

○公民による共創を将来にわたって持続的に推進するため、共創を支援する市職員の能力向上やコーディネーターの育成、主体となって行動する市民・企業等の意識醸成などに取り組む。

「公民」の共創を推進するとともに、**「民民」の共創も支援**し、まちづくりの好循環を創出する。

○本市では、市民・企業等と行政の「公民」の共創のほか、市民・企業等による「民民」共創も促進（支援）することで、地域全体の魅力・活力の向上や創造性の高いまちづくりをより一層推進し、まちづくりの好循環を創出する。

第3章. 共創の進め方

2 共創の原則

ビジョンの共有，誠実なコミュニケーションなどの原則を意識し，共創に取り組む。

【ビジョン（目標，実現したい姿）の共有】

- 異なる立場や価値観を持った人々が，共創を実現するためには，**共創の目的や目標を明確化・共有化**し，常に意識しながら，取り組んでいく必要がある。
- ビジョンについては，行政の「市民の福祉の向上」と，民間事業者の「CSR」や「株主価値の最大化」という**行動原理の違いを前提とした上で，本市のまちづくりとの整合性**が必要

【誠実なコミュニケーション】

- 対等な対話を通じたコミュニケーションを積み重ね，**相互理解**を図り，パートナーとしての**信頼関係**を構築
- 共創事業の実施に向けて，前例にとらわれることなく，自由かつ様々な視点でアイデアを出し合いながら，**迅速・柔軟**に検討する。

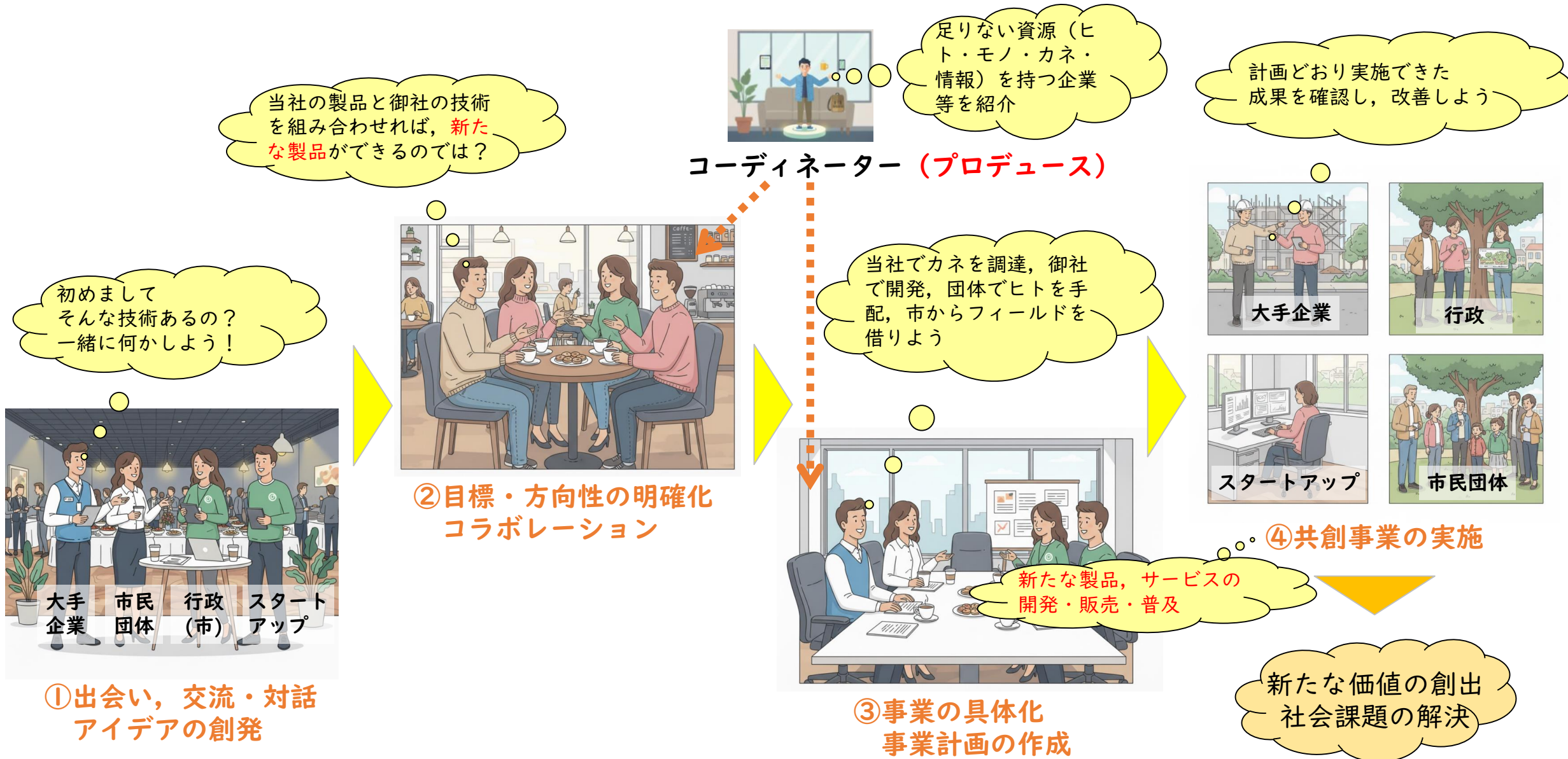
[留意点]

- ・オープンマインド（固定観念を捨てる）
- ・相手へのリスペクト（多様性を価値と捉える）
- ・聴く姿勢（傾聴と共感）
- ・相互理解を目指す（対話的姿勢）
- ・当事者意識（オーナーシップ）

【関わり方と責任の明確化】

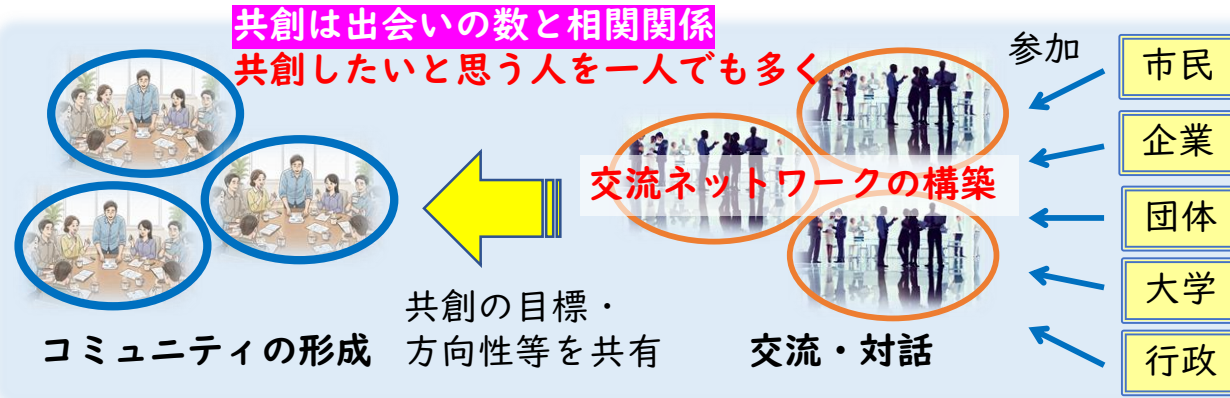
- 相互の能力が最大限に発揮でき，効率的・効果的かつ持続的に共創できるよう，相互の関わり方と責任の明確化
- 互恵的な関係（Win-Winの関係）**の構築し，まちづくりへの好循環を創出

【参考】共創のイメージ（ステップ）



【参考】共創のイメージ (ステップごとの市・事業者等の関わり方)

① 「共創」の礎となる、人々の**出会い、交流・対話**による**アイデアの創発**



[主な関わり方]

- 市
共創のきっかけとなる交流・対話の機会の創出（イベント等）、情報発信
- 事業者等
積極的な参加、交流・対話
まちづくりへの興味・関心



② 共創者が同じ認識を持ち、取り組めるよう、**共創の目標・方向性の明確化**、**コラボレーションの創出**

[主な関わり方]

- 市
：方向性の設定に向けた支援（情報提供、助言、コーディネート等）
コラボレーションの創出に向けた環境づくり（場、機会の創出）
- 事業者等：アイデアの実現に向けた保有リソースの確認、積極的な情報共有、コミュニケーション、信頼関係の構築



【参考】共創のイメージ (ステップごとの市・事業者の関わり方)

③事業の内容、スケジュールや予算、強みや関わり方を明確にし、事業計画を作成する。

[主な関わり方]

- 市 : 共創事業の円滑な実施に向けた支援 (情報発信, 意識醸成, 助言, 効果的手法の活用)
- 事業者等 : 目的の再確認, 合意形成, 保有するリソースの活用



④共創事業が円滑・効果的に実施できるように、役割分担に基づく共創事業の実施、進捗状況の確認や評価を実施する。

[主な関わり方]

- 市 : 共創事業の円滑な実施に向けた支援 (情報発信, 財政支援等)
- 事業者等 : 事業計画に基づく取組の実施, 利害調整, 役割分担, マネジメント



[コラム] ○イノベーションは成功することだけが目的ではない。アイデアに再挑戦することも多くある。

第4章. 共創人材の育成

共創を将来にわたって持続的に推進できるように、共創人材の育成などに取り組む。

【コーディネーターの確保（発掘・育成）】

○コーディネーターとして活動している人材の活用や、新たな人材の育成など、必要な能力を有する人材を確保する。

＜コーディネーターに求められる主な能力＞

- ・ 共創事業を成功に導くための方向性の提示、参加者の巻き込み、リソース最適化等を包括的に行う「**プロデュース能力**」
- ・ 相手の立場や意見を尊重し、対等な信頼関係を築くことができる「**コミュニケーション能力・巻き込み力**」
- ・ 市場動向や技術トレンド、社会課題等の新しい情報を積極的に収集・活用できる「**情報収集・知見活用能力**」
- ・ 市内外の多様な人材・組織・利害関係者との接点を持ち、共創のための資源を補完できる「**ネットワーク構築力**」

【市職員の能力向上】

○民間事業者等と積極的に交流することにより、そうした民間事業者の視点や考え方等を理解する力や、コミュニケーション能力の向上を図る。

○ピッチイベントにおけるプレゼンテーション等により、宇都宮市の魅力の発信やプレゼンテーション能力を向上する。

＜共創に求められる主な能力＞

- ・ 異なる立場や視点を持つ人々と交流・対話し、相手の立場や背景、価値観を理解する「**共感力・理解力**」
- ・ 自らの意見を適切に伝え、相手の話に耳を傾け、理解する「**コミュニケーション能力**」
- ・ 様々な主体との関係を構築し、適切なパートナーをつなぎ合わせる「**ネットワーク構築力・コーディネート力**」
- ・ 様々な主体と対話・調整を重ね、共創をリードできる「**共創マネジメント力・ファシリテーション力**」（人材育成・確保基本指針）

○共創事例や事業者提案の共有による共創マインドの醸成を図る。

- ・ これまで蓄積された共創事例や事業者からの提案・ソリューション、包括連携事業者のノウハウなどをいつでも気軽に調べられ、共有できる仕組みを構築し、共創に対するイメージの改善や**庁内全体の共創マインドの醸成**を図る。

【市民・企業等の意識醸成】

○市民・企業等に対して、共創の取組等に関する情報発信や実践の場の提供により、市民・企業等の意識醸成等を図る。

＜市民・企業等に求められる主な能力＞

- ・本市のまちづくりに対する関心・好奇心を持ち、主体的に考え・行動する「**探究力**」
- ・相手の立場や背景、価値観を理解する「**共感力・理解力**」

[コラム]

○イノベーションの初期段階では新結合（ニューコンビネーション）が起きる。イノベーションは「技術革新」ではなく、「**新結合**」であり、単体では既に存在するものの、それまでに組み合わせたことがない要素同士を結び付けることで、新たな価値が創造される。

[ヨーゼフ・シュンペーター（経済学者）]

○コラボレーションのカギは、異なる主体が目的を共有し、互いの強みを持ちより、対話を通じて**創造的に学び続ける**こと

○共創のポイントは、「皆が起案者に（評価者は不要）」、「挑戦による失敗を学習成果として評価」「失敗を恐れない」「**トライ&エラー**」

○複数のステークホルダーが関わるため、通常の計画策定よりも「合意形成」「透明性」「柔軟性」「密なコミュニケーション」「信頼関係の構築」が重要

○失敗を受け入れる。イノベーションは成功だけが目的ではなく、失敗し、失敗からしか得られない知識を持って再挑戦することも多い。
「**トライ&エラーの繰り返し**」, 「**アジャイル型の視点**」

○10年後を見据えた視点が不可欠。民間に頼る割合は今より各段に高くなる。仕組みから共に創っていく姿勢こそが独自性につながる。

○将来構想を描き、方向性を示し、総合的にコーディネートできる「**プロデュース力**」が最も大切

第5章. 本市の推進体制・推進施策

I 本市の推進体制

共創事業の実現に向けて、対話を重ねながら全市一体かつ市内一丸となって迅速かつ柔軟に進める。

[共創推進室]

○共創推進のためのワンストップ窓口（相談や提案の受付），事業所管課へのマッチング調整，実施に向けた支援（情報提供や助言，財政支援）等を実施

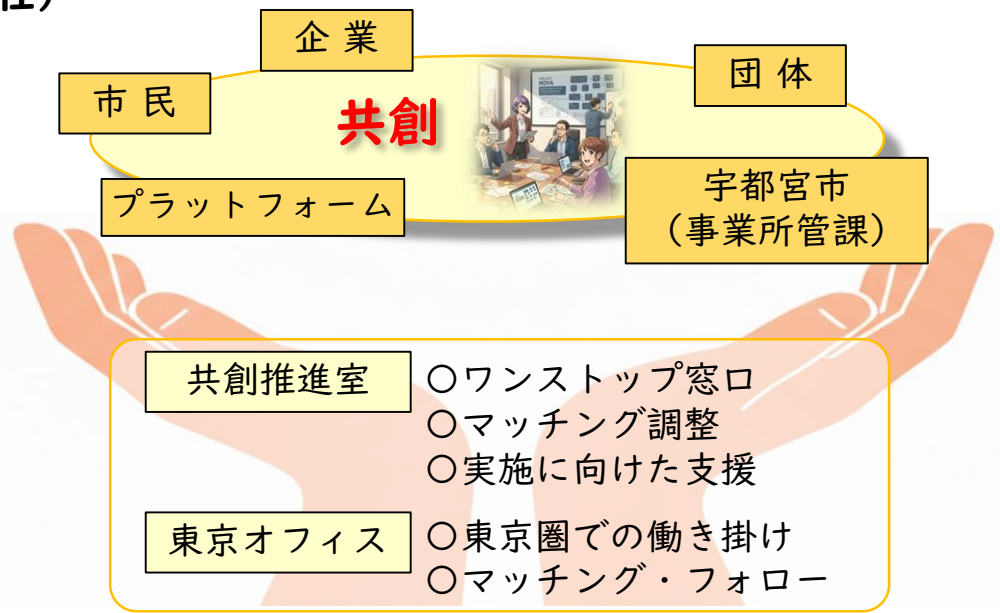
[東京オフィス]

○東京圏の企業等への情報発信・共創の働き掛け・事業所管課とのマッチング・フォローアップ

[事業所管課]

○課題の抽出，提案事業の実施に向けた検討

(現在)

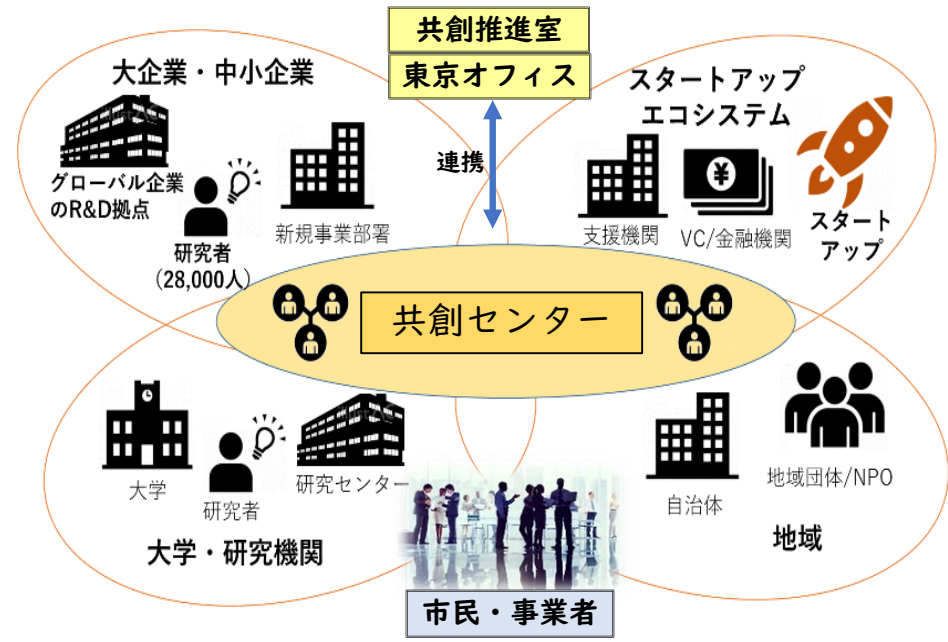


- | | |
|---------------|--|
| 共創推進室 | <ul style="list-style-type: none"> ○ワンストップ窓口 ○マッチング調整 ○実施に向けた支援 |
| 東京オフィス | <ul style="list-style-type: none"> ○東京圏での働き掛け ○マッチング・フォロー |

共創のサポート

(将来イメージ)

共創推進に向け
さらに**充実・強化**

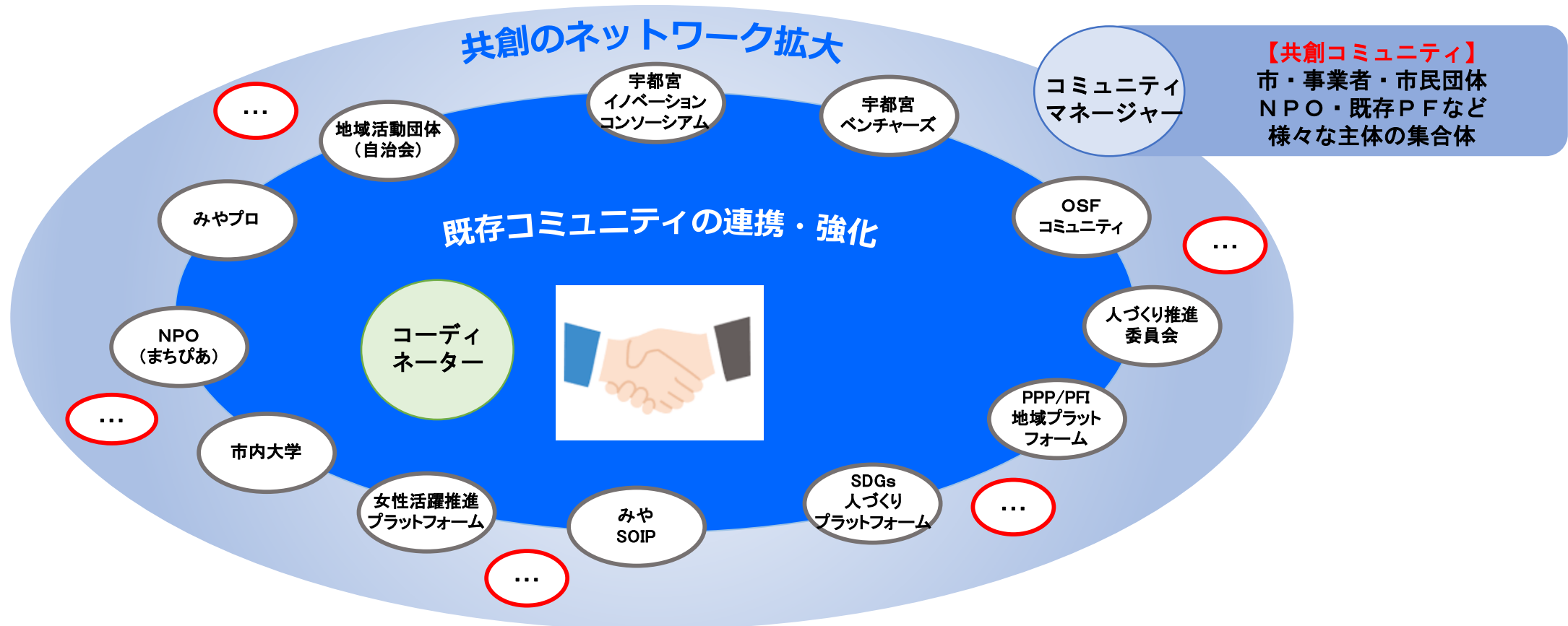


2 本市の推進施策

(1) 各分野における共創の推進【官民連携プラットフォームの設置・運営（事業所管課）】

○分野別の既存官民連携プラットフォームにおける主体的な共創の推進

☞将来的には、現在検討中の共創拠点「(仮称)共創センター」において、既存プラットフォームの更なる連携・強化を図り、共創コミュニティを形成し、共創のネットワークを拡大(想定)



第5章. 本市の推進体制・推進施策

(2) ワンストップ窓口・東京圏での働きかけ【共創デスク（共創推進室・東京オフィス）】

○共創に関する問い合わせ、相談、提案等の一括受付、総合調整、マッチング、伴走支援
 ☞将来的にワンストップ機能を「（仮称）共創センター」へ集約、充実・強化（想定）

(3) 共創のきっかけづくり【交流・対話の機会の創出・Open Session Friday】

○共創7 Days, EXPO酒場宇都宮店, 東京圏におけるゆるっと飲み会, 異業種交流会など, 共創のきっかけとなる出会い, 交流・対話の機会を創出するイベント等を実施

(4) 共創提案の募集, 実施に向けた支援【ミヤ・共創ラボ】

○社会課題の解決や新たな価値の創出, 市民サービスの向上などに向けた共創事業の実証実験・社会実装に取り組むもの

- ・伴走支援：フィールドやデータ, ネットワーク等を提供
- ・財政支援：実証実験対象事業の1/2（上限100万円程度）

(5) 官民の若者による共創の実践【うつのみや未来創造プロジェクト】

○官民の若者による「宇都宮にあってほしい取組」の導出, 具現化
 ☞提案事業数：R7：6件（R4～6：18件）, 参加者数：R7：34名（R4～6：112名）

(6) 双方のリソースを活用した連携事業の実施【包括連携協定】

○双方がWin-Winとなる連携事業の実施により, 社会課題の解決を目指すもの
 ☞協定締結件数：21件

(7) 成長段階に応じた豊富な企業支援【アクセラレータープログラム, オープンイノベーションプログラムなど】

○スタートアップが有する技術やアイデアの事業化支援や, 市内中堅企業との共創を促進



【参考】本市の共創資源等

本市には、プロスポーツやLRTなどの豊富な資源が存在し、これらの資源などを積極的に活用しながら、共創を推進

【プロスポーツのまち】

宇都宮を拠点として、4つのプロスポーツチーム（栃木サッカークラブ、宇都宮ブレックス、宇都宮ブリッツェン、ホンダHEAT（R8～））が活動



【LRT】

地産地消の再生可能エネルギー100%で走行する世界でも類をみない「ゼロカーボントランスポート」として、全国初の全線新設で走行



【R&D】

全国有数の規模を誇る清原工業団地を中心に本市周辺に、グローバル企業の研究開発拠点が集積し、約2万8千人の研究開発人材が在籍

【女性活躍】

女性が希望に沿って、様々な分野において個々の能力を発揮しながらいきいきと活躍できるまち「女性活躍リーディングシティうつのみや」の実現に向けて、女性活躍ムーブメントを創出

本市では、これらの豊富な資源をテーマとした、共創イベントを積極的かつ頻繁に各所で開催

共創 CONNECT

- #1 パートナシップ×SDGs×女性活躍
- #2 R&D人材の平行キャリア
- #3 スポーツ分野における共創事例紹介
- #4 子どもの創造力を育む支援者コミュニティ




R6共創7 Days@ライトキューブ

オープンセッションフライデー @光琳寺

本気のまち 宇都宮で 新領域へのチャレンジを。

【共創推進室】 ☎ 028-626-2116

お気軽にご連絡ください!

✉ u10000501@city.utsunomiya.tochigi.com

【東京オフィス】 ✉ Utsunomiya.satellite3@gmail.com